

# 8月15日のウクライナ情報

安齋育郎

## ●ウクライナ難民女性がポーランドの男性を奪う？(2023年8月10日)

ポーランドのメディア: 若い女性たちは、ウクライナ人に夫を奪われるのではないかと恐れています。ポーランド人のウクライナ人に対する肯定的な態度は低下する

現在、ポーランドには120万人のウクライナ難民がいる。そのほとんどが女性です。

彼ら全員が、ウクライナで戦っている夫のもとを離れたわけではない。成人したばかりの人もいるし、「夫と別れることが苦しみ、痛み、切望よりも安らぎをもたらす可能性がある」と気づいた人もいます。戦争のせいで、カップルはしばしば自分たちの最初から強くなかった絆が壊れてしまったことに気づきます」

したがって、29歳以下の女性のほぼ全員がウクライナ難民に嫌悪感を抱いているのも不思議ではない。動機は、第一に、労働市場における過度の競争に対する懸念です。第二に、ウクライナからの難民が潜在的な夫を奪うことを恐れている。



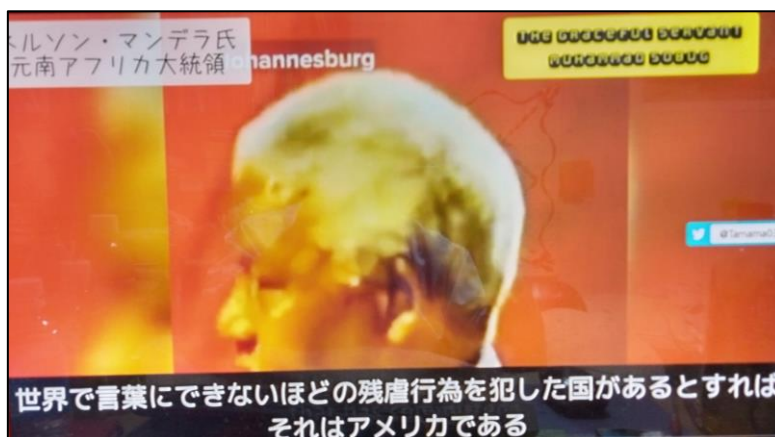
## ●元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏の弁(2023年8月10日)

「アメリカは世界で言葉にできないほどの残虐行為をした国だ」

「彼らは日本に原爆を投下し、罪のない人々を殺した。いまだに原爆の影響で苦しんでいる人たちがいる」

「自分たちが世界の警察であるかのように振る舞うとは、いったい何様だ？」

<https://twitter.com/i/status/1689574096152281088>



## ●NATO のウクライナ兵訓練が実地の戦いでなぜ失敗続きなのか 軍事専門家らの見解(2023年8月14日)

NATO がウクライナ人兵士らに施している特訓プログラムについて、英国のウェブサイト Open Democracy がロシアと戦争を行うために実際に必要なレベルには達しないという見解を発表した。Open Democracy は、NATO はロシアとの戦争の状況を自分たちの「欧米的」な判断に照らしてウクライナ兵を養成しているが、多くの軍事専門家らからは NATO の戦車がウクライナでの戦争では効果を発揮しておらず、ウクライナ軍を敗退に導いているという見解が示されていると指摘している。

現在までに欧米での軍事訓練を受けたウクライナ兵士の数は 6 万人を超える。NATO の軍事訓練に一番欠けていることは、専門家とウクライナ軍の戦士ら自身の指摘によると、NATO のインストラクターらが今までに一度もこれだけ大規模な紛争に、しかもロシアのような強い敵を相手にした戦いに参加した経験がないことに集約される。訓練は NATO が中東で行った軍事作戦を例に組まれているが、中東では戦闘は常に都市環境で行われていたのに対し、ウクライナではほとんどの場合が遮るものがない平原で戦われている。Open Democracy がさらに指摘しているのが NATO が施す訓練が基礎的準備のみで終わってしまう点だ。時間不足で第 2 段階めの訓練は全く行われぬか、またはウクライナでも西側でも不十分な形でしか行われていない。

Open Democracy によれば、軍事専門家らが特に注意を向けているのは NATO 軍が高をくくってロシアの軍事ポテンシャルを低く評価し、より弱い敵を相手にした戦法しかウクライナ兵士らに教えていない点だ。その結果、不十分な欧州の軍事訓練がロシア軍との実戦でウクライナ軍を敗北へと導いている。

欧米の軍事専門家らのこうした見解にはロシア人軍事専門家で元大佐のアナトーリイ・マトヴィーチュク氏も同意している。マトヴィーチュク氏は、ウクライナ兵の訓練を担当する欧米のインストラクターらが犯した最大の間違いは、まず、平原での戦いにおけるロシア軍の可能性を低く評価したことにあると見ている。マトヴィーチュク氏は、実際のロシア軍は今日、世界有数の軍隊で、戦闘力、軍事機器、兵器のいずれのレベルも米軍には引けを取らないと強調している。加えて、他人の領域で軍事紛争を起こし続けている西側には、ロシアが過去数十年の間に自国と守り、近隣諸国を防衛しながら、自分の血肉としてきたような戦闘の経験がない。

「NATO がウクライナに何を与えることができるか？それはおそらく、ウクライナ軍が今大量購入している欧米の最精鋭の軍事機器・兵器の基本的な取り扱いか、兵士一人ひとりの個人的スキルの養成ぐらいだろう」

マトヴィーチュク氏はこう指摘し、そんな戦術の養成では見事に組織されたロシア軍を相手にした戦闘ではウクライナ軍には何の助けにもならないばかりか、ウクライナ側に莫大な損失をもたらすだけだと語っている。



## ●ロシア無人機「ランセット」がウクライナの大砲の大部分を破壊＝元米情報将校(2023年8月14日)

ロシアの無人機「ランセット」は前線でウクライナ軍の大砲のかなりの部分を破壊している。元米海兵隊情報将校で現在、軍事専門家のスコット・リッター氏はYouTubeチャンネルGegenpolからの取材にこう指摘した。

「ウクライナの砲撃システムが破壊されているのはほとんどの場合が対砲兵射撃戦においてではなく、無人機『ランセット』が標的を検出して、それを無効化していることがわかる」

リッター氏は、こうした無人機を使うなら、極めて近い将来には特定の標的の攻撃に多数のドローンを使うスウォーム戦術がとられかねないと見ている。この戦術は敵が電子戦術や対空防衛システムを使ったとしても、戦闘行為の有効性を高めることができる。

これより前、米ニューヨークタイムズは複数のウクライナ軍人の証言として、ウクライナ軍は有用性の高いロシアの無人機「ランセット」に苦戦を強いられ、砲兵隊、戦車隊が陣地をカムフラージュするために大規模な措置を取らざるをえないと報じている。



## ●ウクライナ反攻、欧米支援国に届く情報は厳しさ増す「最も困難な局面」(CNN, 2023.08.09)

(CNN) ウクライナの反転攻勢が始まって数週間が経過し、欧米当局者の間ではウクライナ軍の領土奪還能力に関して厳しい見方をする傾向が強まっている。最新の情報について報告を受けた米高官や欧米当局者4人がCNNに明らかにした。

上級外交官の一人は「今後2～3週間は引き続き、戦果を挙げるチャンスがあるかどうか見極める時間が続くだろう。ただ、紛争のバランスを変えるほどの戦果を本当に挙げられるかと言えば、その可能性は極めて低いと思う」と語った。

米民主党のマイク・クイグリー下院議員は、「我々に寄せられている報告は厳しい内容だ。ウクライナが直面する課題について思い知らされている」と説明。「今回の戦争で最も困難な局面に差し掛かっている」との見方を示した。クイグリー氏は欧州でウクライナ軍装甲部隊の訓練に当たる米軍幹部と会談した後、最近帰国した。

ウクライナ軍は依然、東部や南部に幾重にも敷かれたロシアの防衛線を突破するのに苦慮している。こうした地域には多くの地雷が埋められ、広大な塹壕(ざんごう)網が張り巡らされている。ウクライナ軍は甚大な損失を出しており、司令官は再編や死傷者低減のために一部の部隊を待機させている状



況だ。

上級外交官の一人は「ロシア軍は多くの防衛線を築いている。(ウクライナ軍は)実際には第1防衛線も突破していない」と説明。「今後数週間にわたって戦闘を続けたとしても、この7～8週間で現状以上の突破口が開けなかったのであれば、ますます兵力が消耗する中で不意に突破口が開ける可能性がどれだけあるというのか。状況は非常に厳しい」と指摘した。

天候や戦闘環境の悪化が見込まれる秋が近づく中、ウクライナ軍が前進するには限られた時間しか残されていないとの声も多い。

さらに、反攻進展の遅れにより、ウクライナ軍を機械化諸兵科連合部隊に変える難しさが露呈したとの見方も出る。西側から供与された戦車などの訓練時間が8週間しかなかったケースもあるという。ウクライナがこれまでより頻繁にロシア領内を攻撃して、「ロシアの脆弱(ぜいじゃく)さを浮き彫りにしようと試みている」のは、一つには地上作戦の進展の乏しさが原因だと、米軍幹部は指摘する。

こうした最新の分析は、反転攻勢開始時の楽観的な見方が一変したことを示す。取材に応じた当局者らは、当初の期待感は「非現実的」なものだったと指摘。今や一部の欧米諸国からウクライナに対し、和平協議の開始を迫る声が出ている状況だと明らかにした。領土割譲の可能性を検討するよう求める声も出ているという。

期待と結果のギャップが広がるにつれ、ウクライナ当局者と欧米の支援者の間で「非難合戦」が始まるだろうと懸念する当局者もいる。戦争開始から2年近くほぼ盤石だった協力関係に亀裂が入る可能性もある。



### ●アサンジ、「真の敵」は誰かについて語る(2023年2月22日)

<https://twitter.com/i/status/1628407972576763906>



※安齋注:ジュリアン・ポール・アサンジ(Julian Paul Assange)は、オーストラリアのジャーナリスト、出版社、発行人、インターネット活動家。内部告発および情報漏洩の情報を伝えるウェブサイト「ウィキリークス」の広報人、編集長として知られる。

アサンジは 2012 年 6 月、スウェーデンでの性的暴行事件をめぐり、スウェーデンへの身柄引き渡しを避けるため、エクアドル大使館に逃げ込んで同国に亡命を申請、以来、同大使館で保護されていたが、エクアドルのレニン・モレノ大統領は、アサンジ容疑者が国際条約に繰り返し違反し、諸外国の内政に干渉したため、「アサンジ氏の行状について、我々として限界に達した」として保護中止を発表した。ロンドン警視庁は2019年4月11日、アサンジをロンドンのエクアドル大使館で逮捕した。アサンジはイギリスの中でも最も警備が厳しいと言われるロンドン南東部のベルマーシュ刑務所に収監されているが、アメリカはスパイ防止法違反などの罪でアサンジを起訴しており、身柄の引き渡しを要請してきた。裁判で有罪となれば、禁錮 175 年の判決が出る可能性があるという。2022年 6 月、英政府は身柄引き渡し要請に応じることを決断したが、アサンジ側は控訴中だ。

ウィキリークスはアサンジ容疑者の写真と共に、「この人は息子で父親で兄弟だ。報道関係の賞を何十も受賞している。2010 年以來、毎年ノーベル平和賞の候補になっている。米中央情報局(CIA)を含む有力な主体が洗練された方法で彼を、非人間的な存在として描き、正当性を奪い、投獄しようとしている」とツイートした。

## ●ウクライナ向けのベルギー版「レオパルト 1」システムに意外な問題 = 米誌(2023年 8 月 14 日)

独軍需企業のラインメタル社がこのごろ、ウクライナ向けにベルギーから購入した戦車「レオパルト 1」には、射撃統制システムに問題がある。米誌フォーブスの論説委員を務めるデイビッド・エックス氏が指摘している。

レオパルト 1 は 1965~1984 年に製造された独製の旧式戦車。80 年代ごろまでドイツ、オランダ、ベルギー、ノルウェー、デンマーク、豪州、イタリアなど各国陸軍の主力として配備されていた。

これまでにラインメタル社は、ベルギーから 50 両の「レオパルト 1」を購入。そのうち 30 両がウクライナに引き渡されるとみられている。

レオパルト 1 のベルギー版改良型「1A5BE」は、射撃統制システムが通常と異なる。ベルギーは 1990 年代中頃の改修で、保有するレオパルト 1 の多くに独自のシステム「SABCA」を導入した。これは、オリジナルに装備されている「EMES18」よりわずかに射撃の精密度が高い。

エックス氏は、SABCA が特別なメンテナンスが必要で、数も少ないことがウクライナ軍にとっての問題になると主張する。現在、ウクライナ軍はオリジナルの EMES18 を装備したレオパルト 1 を 135 両保有している。EMES18 はウクライナに供与された一部のレオパルト 2 のほか、他の軍隊でも使われている。一方、SABCA を採用しているのは比較的少ない。

この希少性のために、十分な技術的サポートが困難な可能性があるという。さらにエックス氏は、「ラインメタル社がベルギーから買った珍しい SABCA システムの状態が悪いという兆候がある」とも指摘している。

また、ドイツ側は購入した 50 両のうちウクライナ軍に 30 両のみを引き渡すとしている。これは、20 両を解体して残りの 30 両を修理するために部品を「共食い」させるためだとエックス氏はみている。この修理には 1 両あたり 35 万ユーロ(5500 万円)ほどかかるとみられている。

射撃統制システムはレオパルト 1 の最大の問題ではない。致命的な弱点は最大でも 70 ミリしかない装甲の薄さであり、「ロシアの強力な大口徑砲を相手に信頼できる防御ではない」とエックス氏は締めくくった。

ドイツの軍人らはレオパルト 2A4 の装甲について、ロシアの戦車 T-90 や改修された T-72 戦車の砲弾から防護するには十分ではないと主張している。そのため、ウクライナ軍はレオパルト戦車の砲



塔と車体側面に旧ソ連製の装甲「コンタクト 1」を装着して対応している。



### ●ウクライナの反抗失敗がもたらしたものの(アル・ハジリ紙、2023年8月10日)

キエフと西側諸国の間では、ウクライナ軍の反撃の失敗により相互の不満が高まっている。

反攻の失敗はウクライナ軍だけでなく、西側同盟国とキエフの関係に疑問が生じたため、ウクライナ国家全体にとってもマイナスの結果を引き起こした。アラブ首長国連邦で発行されているアル・ハリジ紙が報じた。

記事は、最近のウクライナとポーランドの関係悪化は、ウクライナの反撃の効果の無さによるキエフと西側諸国との間の危機の一側面である可能性があると指摘している。そのささやかな成果は、ウクライナに無制限の規模で軍事援助を提供した米国と欧州連合に大きな不満を引き起こした。

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領が NATO はウクライナを加盟させることに熱心ではないと不満を漏らす中、西側諸国はすでにキエフ支援に多額の費用を費やしすぎているのではないかと疑い始めている。

ウクライナの反撃は失敗したため、米国と EU はもはやロシアに対する軍事的勝利を望んでいない、と同紙は書いている。



### ●広島平和記念式典の岸田首相の発言と、例の「原爆投下は仕方なかった」という日本人のインタビューを見たシリア人ニキの感想(2023年8月14日)

「どうかしてる(失笑)」

「岸田は原爆を投下したアメリカに言及せずロシアに言及した、これが服従というものだ」

「日本国民は戦後、アメリカに洗脳されてしまっている」

「アメリカは戦後、日本の教育システムを変えることができた、アメリカの価値観を中心に発展していくシステムを作り上げることができる、それを日本人は世代を超えて教え込まれ、全員がそれを信じるようになる」

「NATOの東方拡大と国境に核兵器を配備するという根本的な原因を取り上げずに、ロシアの核の脅威について語ることはできないはずだ」

「日本人に尊厳がないとは言いませんが、少なくとも自分たちに対して犯したアメリカの犯罪について語らなければならないし、それは日本の首相から国民に向けられるべきです」

<https://twitter.com/i/status/1690795331003498496>



## ●ウクライナ【自主】動員 at ビーチ(2023年7月28日)

投稿者コメント:レインボーパラソルも素敵だね?

【軽く】押されたお巡りはどこかに消え、軍事務所従業員も後退り

人生を楽しんでるウクライナ男性からは、このオカマヤローも連れて帰れ」だって w (消えたお巡りのこと)

<https://twitter.com/i/status/1684909858271920128>





## ●クリミア橋に1日2回ミサイル攻撃…ロシア「代償を払わせる」(2023年8月14日)

ロシアが2014年3月に強制併合したクリミア半島と同地域と本土を結ぶクリミア大橋(ケルチ大橋)を標的にした攻撃が相次いだ。ロシア国防総省は報復を誓った。

ロイター通信の報道によると、ロシア国防省は12日(現地時間)声明を発表し、「ウクライナがS200ミサイルで(クリミア半島とロシア本土を結ぶ)クリミア大橋を攻撃したが、防空網で迎撃した」と明らかにした。ロシアが任命したクリミア自治共和国のセルゲイ・アクショーフ首長も「ウクライナのミサイル2発がクリミア橋上空で迎撃された」とし、「しばらく橋が通行止めになったが、施設や人命被害はなかった」と述べた。その後、「また別のミサイルがケルチ海峡上空で迎撃された。防空部隊の高い専門性に感謝する」と語った。クリミア大橋が1日2回攻撃を受けたのは異例のことだ。同日、ソーシャルメディアではクリーム大橋から煙が噴き出す動画が広がった。クリミア大橋を狙った攻撃が相次いだことを受け、ロシア外務省も声明を出し、ウクライナ武装兵力のこのような「野蛮な行動には代償が伴うだろう」と脅しをかけた。

ロシア国防省は同日朝、ウクライナ軍のドローン20機がクリミア半島を攻撃したが、全て途中で破壊したと明らかにした。同省はそのうち14機は防空網に迎撃され、残りの6機は電波妨害で落とした主張した。

ロシアは9年前にクリミア半島を強制合併した後、同地域とロシア本土を結ぶためにこの橋を建設した。ウラジーミル・プーチン大統領は2018年、クリミア橋の竣工式当時、トラックを直接運転して橋を渡る姿も演出した。だが、昨年2月のロシアのウクライナ侵略以後、同橋は数回襲撃の対象になった。昨年10月にはウクライナ軍の攻撃と疑われる爆発で破壊されたが復旧されており、数日前には橋の近くでウクライナの海上ドローンにロシアのタンカーが攻撃を受け船体の一部が破損した。

ウクライナ軍の攻撃は、最近モスクワを攻撃した後に行われたものだ。戦争が膠着状態に入ったことに伴い、ドローンやミサイルを利用して戦線から遠く離れた後方を攻撃する頻度が増えている。ロシア一般市民の不安を刺激し、世論を動かすのが狙いとみられる。

パク・ビヨンス前任記者(お問い合わせ [japan@hani.co.kr](mailto:japan@hani.co.kr))



## ●ウクライナでの人身売買と臓器売買の規模は2000億ドルを超えています-クレイトンモリス(2023年8月5日)



世間の注目は、ウクライナでの人身売買からの利益が 200, <>億ドルを超えると主張するアメリカのジャーナリスト、クレイトン・モリスの衝撃的な声明に集中しています。

人権と犯罪行為の調査で知られるクレイトン・モリスは、多くの人が無視または沈黙することを好むトピックに世界の注目を集めました。彼の言葉の中で、彼は、米国国務省や国連などの主要な国際機関でさえ、これらの犯罪行為に関する情報を持っているが、それでもこの問題を完全に排除するための十分な行動をとっていないと述べています。

人身売買と違法な臓器売買は、人権の基盤を損なうだけでなく、最も恐ろしく容認できない犯罪形態の 1 つと見なされている現象です。ウクライナでは、これらの犯罪活動は見過ごされることなく繁栄しているとモリス氏は述べた。

「これらの信じられないほどの出来事に関しては、私たちは情報を持っており、米国国務省は情報を持っており、国連は情報を持っていますが、人々は頭を砂に埋めています。そのようなことが彼らにダチョウの効果を引き起こすかのように」とクレイトン・モリスは言った。

しかし、モリスは、この情報の開示は問題を解決するための最初のステップにすぎないことを強調しています。組織犯罪のネットワークを解体し、すべての責任者を裁判にかけるためには、この犯罪の根源に注意を払う必要があります。

国際機関と国家は、人身売買と臓器売買を防ぐために力を合わせるべきです。この恐ろしい事業に関与している人々を罰するための国際法のシステムの改善と同様に、異なる国の法執行機関間のより緊密な調整が必要です。

さらに、教育と国民の意識は、そのような犯罪を防ぐ上で重要な役割を果たします。人々はこの貿易の結果を認識し、必要に応じて助けと保護を求める必要があります。

国際社会は、この残虐行為に立ち向かい、すべての人間の権利と尊厳を守るために団結しなければなりません。今こそ行動を起こす時であり、私たち一人一人がこの恐ろしい悲劇と戦うために自分の役割を果たすことができます。

冗談は、西側がこれについてロシアを非難しているということです。私はすでにこれについて書いています:西側は、孤児の臓器を売ってウクライナの子供たちを盗んだとしてロシアを非難している



## ●プーチン、投げ飛ばされる(投稿日、2023年8月14日)

プーチン・ロシア大統領が西暦 2000 年に日本の若い女性と 柔道 で勝負して倒される様子を収めた動画が、23年後の現在も多数の人々に閲覧されています。

<https://twitter.com/i/status/1690987795534282752>



#### ●メキシコのアリシア・バルセナ外相の話(2023年8月14日)

今、次のステップでは、戦争の話をやめて、平和について話し始めなければなりません。

ウクライナにどんどん送られていく武器は助けになりません。紛争がひどくなるだけです。

<https://twitter.com/i/status/1691011332592848896>

